科目コード	52110	授業科目	継続保健看護教育Ⅰ Continuing Education in Health Nursing Ⅰ	担当教員	○宮里智子 嘉手苅英子 非常勤（未定）

開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	コア科目	授業形態	講　義
選択必修	必修	時間数	30 時間				

講義概要	看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯教育の現状、看護職としての成長過程および看護職のキャリア開発と支援システム、看護継続教育における教育方法について学習する。さらに、看護実践の場における看護職への具体的な教育・指導場面の分析を通して、看護者としての成長を支援する教育方法について学習する。
到達目標	1 わが国の看護基礎教育から継続教育に至る看護生涯教育の現状について説明できる。 2 成人学習者の特徴を踏まえ、目的や対象に即した適切な教育方法を選択することができる。 3 看護職者の成長過程と看護生涯教育への支援システムについて説明できる。 4 看護職者としての成長を支援する教育的関わりとは何かについて例示しつつ説明できる。

講義回数	授業内容及び計画	担当者名
第1回	1．わが国の看護教育制度とその変遷／看護教育課程と法的基盤 看護基礎教育、高度実践看護者（専門看護師、認定看護師など）の教育	嘉手苅
第2回	2．看護継続教育の現状と課題、対策 看護学生から看護職者へ、新人から熟達者へ	宮里
第3回	3．看護職のキャリア開発と支援システム 1）キャリア、キャリア開発とは	宮里
第4回	2）キャリア発達を支援するシステム プリセプターシップ、クリニカルラダ―制など	〃
第5回	4．学習者主体の教育方法	嘉手苅
第6回	1）共同学習	〃
第7回	2）アンドラゴジー 成人学習者の特徴，看護職者の特徴、成人教育の特徴	〃
第8回	3）自立度に即した教育；コーチング	〃
第9回	4）実践の場におけるシミュレーション教育	非常勤（未定）
第10回	5）実践を振り返りつつ学ぶ；リフレクション 協同教育	嘉手苅
第11回	6．看護実践の場における看護職への教育的関わりの振り返り ・教育実践の過程的構造と認識の発展	〃
第12〜15回	7．看護実践の場における看護職への教育的関わりの分析 ・体験を事実的に再現し記述する（再構成） ・看護職への関わりを分析し、看護職としての成長を支援する関わりであったのかを検討する ・総括	嘉手苅

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	講義の際に提示する
成績評価の方法	評価は授業への参加状況（プレゼンテーション、討議を含む）50点 レポート　50点　により総合的に行う。 （欠席およびレポート提出の遅れは評価に反映する）
備　考	授業は院生のプレゼンテーション・討議を中心に進める。

科　目 コード	52140	授業 科目	保健看護と研究Ⅰ （Nursing and Health Research Ⅰ）	担当 教員	○大湾明美・ 金城芳秀

開講年次	博士前期課程 1年次　前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・コア科目	授業 形態	講義
選択必修	必修	時間数	30時間				

授業概要	看護ならびにヘルスケアの課題を解決するために、看護研究の基礎的知識および倫理的配慮、研究のプロセス、科学論文の書き方等を学習する。
到達目標	① 看護実践を研究する意義をEvidence Based Practice(EBP)の概念に基づき説明することができる。 ② 研究の倫理的配慮について説明することができる。 ③ 看護研究の基礎的知識を学習し、研究の準備、方法を説明することができる。 ④ 質的研究・量的研究の特徴を述べることができる。 ⑤ 研究方法の特徴を踏まえ、文献検索、倫理審査書類、科学論文の書き方，プレゼンテーション技術を説明できる。

回数	教育内容及び計画	担当者
第1回	EBPの概念に基づいた看護実践と看護研究	大湾
第2回	研究テーマ・研究方法の選び方	大湾
第3回	研究方法(1)研究計画作成方法	大湾
第4回	研究方法(2)文献レビュー、研究デザイン	大湾
第5回	研究方法(3) データ収集（質問紙・調査票の作成方法）	金城
第6回	研究方法(4)量的研究の分析	金城
第7回	研究方法(5) 質的研究の分析	大湾
第8回	研究方法(6)結果・結論の示し方	大湾
第9回	効果的な文献検索(1)	金城
第10回	効果的な文献検索(2)	金城
第11回	看護研究と倫理的配慮	大湾
第12回	倫理審査書類の書き方(1)	大湾
第13回	量的研究論文の書き方(1)	金城
第14回	質的研究論文の書き方(2)	大湾
第15回	発表のプレゼンテーション技術	大湾

テキスト	福田吉治・山懸然太朗監修（2007）保健医療福祉の研究ナビ，金原出版
参考文献	Beverly M.Henry 著、上田礼子監訳（2004）：看護研究ハンドブック，医学書院 John W. Creswell，他　著(2007)研究デザインー質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会 Immy Holloway，他　著(2006)ナースのための質的研究入門ー研究方法から論文作成まで，医学書院 高木廣文・林邦彦著(2006)：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方，中山書店 澤田昭夫（2011）：論文の書き方，講談社 澤田昭夫(2011)：論文のレトリック，講談社
成績評価の方法	1．授業への参加状況 2．到達目標に関わる課題レポート
備　考	学生と教員間のディスカッションと演習を通して，論理的・科学的思考能力を磨く。